



～きれいな海と川と未来のために～  
戸田市版プラスチック・スマートアクション



## 【プラスチックごみを減らしましょう】

プラスチックは、軽くて丈夫で加工もしやすい、現代社会を支える便利な素材です。しかし、分解が難しいという特性もあり、プラスチックごみ（以下「プラごみ」といいます。）が自然界に放置されると、そこで長期間残り続けてしまいます。特にプラごみが海に到達すると、紫外線や波の影響でマイクロプラスチックと呼ばれる小さな粒や破片の状態となり、生態系への影響が危惧されるだけでなく、海からの恵みを得て暮らす私たち人類への影響も懸念されています。

戸田市には海はありませんが、市内には海につながる河川があり、プラごみと海洋ゴミの問題は他人事ではありません。

そこで、プラスチックを賢く使い、きれいな海や川や未来を実現していくために、「戸田市版プラスチック・スマートアクション」を策定しました。

きれいな海や川や未来のために、私たちに何ができるのか。ここでは、日々の暮らしや活動の中で実践していただけるような、市民の皆さんができること、事業者の皆さんができること、市がやることをそれぞれ掲げておりますので、できることから実践してみましよう。

きっと、環境にやさしいだけでなく、ごみ出しが楽になったり、節約になったりと、ご自身にとってもやさしいライフスタイルにつながっていきます。一人ひとりがまず取り組み、暮らす人全員、働く人全員に広げていくことで、きれいな未来に向かって大きなパワーとしていきましょう。

## 【プラスチック・スマートアクション】

### （１）市民の皆さんができること

- ☐ プラごみ削減への関心をもつ。
- ☐ マイボトルを持ち歩き、ペットボトルの使用量を減らす。
- ☐ マイバッグを持ち歩き、レジ袋や包装用ビニールの使用量を減らす。
- ☐ マイ傘袋を持ち歩き、雨の日の傘用ビニール袋の使用量を減らす。
- ☐ 商品は、包装が簡易なものを選ぶ。
- ☐ 洗剤などは詰め替え用を活用し、容器ボトルを繰り返し長く使う。
- ☐ 食べ物を買ったとき、使い捨てのスプーンやフォークをもらわない。
- ☐ 使い捨てのプラスチック食器を使わない。
- ☐ ペットボトルごみやプラマーク容器包装ごみの分別を徹底して、できるだけ再資源にまわし、もやすごみを減らす。
- ☐ ごみを落としたらすぐに拾う。（特にプラごみは軽いため、河川まで飛散しやすいです）

### （２）事業者の皆さんができること

- ☐ プラごみ削減への関心をもつ。
- ☐ 自社のプラごみ削減に向けた取り組みを積極的に発信する。
- ☐ お客様に提供する使い捨ての食器類をプラ素材から変更できないか検討する。
- ☐ マイボトルやマイバッグを持ったお客様にメリットがある事業手法を変更する。
- ☐ 製品製造やサービス提供にあたり、プラスチックの省資源化に取り組む。
- ☐ 製品製造やサービス提供にあたり、再生可能な素材の利用を検討する。
- ☐ 事業系ごみを減らし（特にプラスチック素材）、ごみ処理にかかる経費も節減する。

### （３）市がやること

#### 市役所の業務で取り組むこと

- ☐ 行政主催イベントでの使い捨てプラスチックの提供機会を削減する
- ☐ 会議（市民が参加するものも含む）でのマイボトル持ち込みを励行する

#### 市民の皆さんの取り組みを支援すること

- ☐ 公共施設への給水スポットを順次設置し、市民の皆さんに利用してもらう
- ☐ ペットボトルごみやプラマーク容器包装ごみの分別方法をわかりやすく情報提供する

#### 市民の皆さんとの協働で実現していくこと

- ☐ プラスチックごみをテーマにした啓発キャンペーンの実施
- ☐ 製品プラスチック（現在はもやすごみ扱い）の回収方法を研究する



## 【市民の皆さんからもアイデアをいただいています】

食品用ラップ(プラスチック原料)を減らすために、蓋つきの容器を使うとよいと思います。繰り返し使えるシリコン製のふたやシリコンラップを使ったり、昔はよく使った、布にミツロウを染み込ませた「ミツロウラップ」を活用するとよいと思います。

(市内在住 N・Mさん)

短時間ですぐに捨てられてしまう傘袋(ビニール製)の使用量を減らすために、マイ傘袋を持ち歩くとよいと思います。また、傘立てをもっと増やして、傘立てを使う時には、取り違えを防ぐアンブレラマーカ―を付けると、傘を長く大切に使えると思います。

(市内在住 T・Yさん)

夢の技術ですが、ごみを回収しつつ登下校も見守る「ごみ拾い見守りロボット」とか、太陽の力で動く「川ゴミ回収装置」があれば、海洋がきれいになると思います。提案にあたっては、実際に道路や河川の様子をよく調べてみました。

(戸田南小学校の児童グループからのご提案)

家庭にある牛乳とレモン汁からつくる「生分解性プラスチック」を使うことを提案します。「ecoba!!」と名付けました。例えば、これに花の種などを入れるとよいと思います。実際に自分たちで作成し、分解する様子も観察するなどよく調べてみました。

(戸田第一小学校の児童グループからのご提案)

プラスマの取り組みにがんばっている人を紹介したりほめたりする「プラごみ減らし隊」をつくってはどうか。また、公共施設にリサイクルボックスを設置して、いつでもプラごみを捨てられるようにすると、まちなかのプラごみが減ると思います。

(市内在住 H・Sさん)